

教育センターだより

令和4年度 第3号

黒部市教育センター

「教師の資質・能力を高めて」

黒部市立明峰中学校

校長 松島 悟

「教師は『五者』であることが望ましい。『五者』とは、『学者』『役者』『医者』『芸者』『易者』のことである」

これは、私が20代の頃、中教研の総会で、当時の教育長が激励の挨拶の中で紹介された言葉です。当時の私は、意味がよく分からず、深く考えなかったように思います。あれから30年以上経ってみて、もう一度この言葉の意味を考えてみたいと思います。

まず、『学者』です。教科指導における専門性を表しており、「自分の教えている教科については、絶対の自信がもてるように日々勉強しなさい」という意味だと考えます。経験と勘にだけ頼るのではなく、教師自らが勉強し、新しい知識や技能を吸収して指導する必要があります。学習指導要領が改訂されICTの活用が求められる現在はなおのこと、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習・指導方法の改善が求められています。

次に『役者』です。時々、小・中学校の授業を参観させていただく機会がありますが、巧みな話術や仕草で子供たちを引きつけている先生がおられます。「ごめん、よく聞こえなかったから、もう一度大きな声で言ってくれるかな」と大切な発言を繰り返させたり、わざと間違っさせて「先生違うよ!」「えっ、どこ?」と授業内容を確認させたりする先生もおられます。時々「笑い」も入れながら、子供たちを集中させる「技」を身に付けておられ、「名優だな!」と感心することがありました。

続いて『医者』です。「医者は、病気を診るだけでなく病人を診なさい」という言葉があります。「病気にこだわりすぎて、患っている病人の気持ちやその背景が見えなくなってしまうことがある」という意味だと聞いたことがあります。教師も子供の言葉や行動だけにとらわれすぎると子供の本当の気持ちや背景が見えなくなってしまうことがあります。子供の表情や声のトーン、雰囲気等から敏感にその子供の心身の状況を、把握できる力が求められているのだと思います。

さらに『芸者』については、いろいろな考えがあるようですが、私は「子供たちが楽しく成長できる環境をつくることのできる教師のこと」だと思います。いわゆる学級経営能力です。子供たちの居場所を確保し、「毎日安心して登校できる学級」、あるいは、「明日学校に行くのが待ち遠しくなるような学級」をつくるのが教師の大切な役割だと思います。

最後に「易者」です。教師は子供の隠れた適性を見だし、子供の将来の可能性を広げてやるのが大切です。今年の初場所で十両に復帰し、14勝1敗で十両優勝した元大関の朝乃山関は、高校時代の恩師・浦山英樹さんから、「横綱になれるのは一握りだけどチャンスがあるから頑張れ。富山のスターになりなさい」などと書かれた手紙をもらったそうです。

学習指導要領では、児童生徒の発達段階を考慮して、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力の育成が求められています。私たち教師もまた、日々教師道の修行に努めて、自らの資質・能力を高めていくことが求められているのだと思います。



出会いに感謝

黒部市立生地小学校

校長 森内 裕之

初任の学校は朝日町立泊小学校でした。最初の頃は、仕事への誇りや子供への愛情をもってはいたものの、今の自分と比べると、いい加減な部分が多かったと思っています。しかし、不登校（当時は登校拒否）のAさんとの出会いがきっかけで、意識が変わりました。子供たちに真摯に向き合うことを第一にするようになったのです。具体的には、大休憩や昼休みには子供たちと遊び、ノートや日記には朱書きをなるべくたくさん入れるなど、子供たちとの関わりを大切にしました。また、授業力を高めたいと思いから、小教研の研究授業や通常訪問の指定授業等を多く引き受けました。ただ、子供への向き合い方や授業力を高める姿勢には、客観的に見ると、狭い視野の中で自分の思いを優先して空回りしていた部分があったと思っています。

朝日町に8年間お世話になった後は、ずっと黒部市にお世話になっています。その間、国立立山青少年自然の家で企画指導専門職を務め、東布施小学校の閉校・たかせ小学校の開校に教頭として携わり、そして、富山県教育委員会 生涯学習・文化財室で主任社会教育主事を務めました。管理職に就こうとする辺りから、通常の教員生活では体験できないことを経験してきたという思いがあります。特に国立立山青少年自然の家では、様々な職種の方が混在するため情報共有の必要性、閉校・開校では保護者や地域の方との絆を深めることの大切さ、生涯学習・文化財室では、物事の本質を見極めることや相手意識を高めることの重要性等たくさんのお出会いの中で数多くのことを学びました。

また、管理職を目指そうとしたきっかけは、ある先輩校長との出会いです。「子供を育てることと人を育てることは同じ。誰かが先生方を育てていかななくては」という言葉を聞き、本気で管理職を目指そうと考えるようになりました。その後もその先輩校長からは、たくさんのお話を学びました。「よい意味で先生方、子供たちをハッとさせる場が必要」「管理職は、保護者や地域が学校の応援団になるよう努めることが大事」等々です。

私にとってA君や先輩校長との出会いが大きな転機になったわけですが、出会った全ての子供たちや保護者、地域の方々、教職員、国立立山青少年自然の家や生涯学習・文化財室のみなさんがいて、今の自分があります。その素敵な出会いに感謝しています。

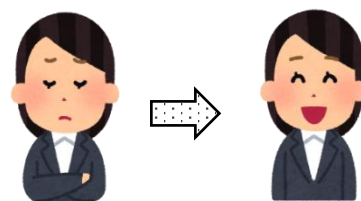
「出会いに感謝して」

黒部市立石田小学校 校長 朝倉 美音子

令和5年3月に定年退職することになりました。滑川市で4年間（初任は早月中学校）、黒部市で33年間（桜井中学校13年間、高志野中学校12年間、鷹施中学校6年間、石田小学校2年間）、富山市で1年間（東部教育事務所）、働かせていただきました。この機会に38年間の教員生活を振り返るとともに、お世話になった皆様への感謝を伝えることができればと思います。

教員生活は、先生方や児童生徒、その保護者との素敵な出会いがあり、たくさんの思い出は宝物になっています。その一方で、児童生徒の気持ちが十分に理解できなかったことや保護者対応がうまくいかなかったこと等、辛い思いをしたこともあります。初任教頭の時に、「児童相談所、富大小児科、富山病院、スクールカウンセラー、東部教育事務所、黒部警察署、市教委（学校教育課、こども支援課）等」の方々とケース会議をもつほどの事案を経験したことも、今では思い出の1つです。当時の校長先生は動じずにリーダーシップをとっておられ、多くのことを学ばせていただきました。その時教えていただいたことを時折思い出しながら、今に至っています。

仕事が思うように進まずに悩んでいたときに、先輩の方々から優しく声をかけてもらったことは、大変励みになりました。「その仕事は誰かがしなければならぬ仕事だから、頑張る」とか、「忙しい人に仕事に行くのは、段取りよく仕事をするとするからで、暇な人には仕事はいかないものですよ」とか。今振り返ってみますと、自分が先輩方にしてもらって嬉しかったことを、自分はできていたかなと少し反省しています。



先日、黒部市小学校・中学校教育研究会 合同講演会で「『自分らしさ』って何？」という話がありました。そのときに、ふと以前に「先生って、人生を楽しんでいる人ですね」と言われたことを思い出しました。周りから、そう見られているのかと気付かされて、妙に納得した部分があります。私は、モチベーションを上げるためと理由を付けては、美味しい物を食べたり、旅行に行ったりして、自分へのご褒美を楽しんできました。そこで得

たエネルギーを仕事に向けることで、数々の難局も乗り越えられたような気がします。それと、私は教員の仕事が好きで、家族に「仕事中毒」とまで言われたこともありました。多くの皆様に支えていただいたおかげで、好きな仕事を自分らしく定年まで続けることができたのだと思います。



最後に、これまでお世話になった教職員の皆様、児童生徒の皆さん、保護者の皆様、地域の方々との出会いに感謝するとともに、皆様方がこれからも、ますますご健康で活躍されますことを願っております。

今まで
ありがとう
ございました!

37年分の「恩送り」

黒部市立中央小学校

校長 齊 藤 誠

「草いろいろ おのおの花の 手柄かな（松尾芭蕉）」

たくさんの子供たちと保護者、校長先生や上司、諸先輩、教職員の皆さんに支えられながら過ごした日々は、瞬く間でした。自分の教育観を根底から揺さぶられた出会い、道徳授業に没頭した時間、悩みと苦しみの連続に泣きだしそうになった出来事、歓喜や感動のドラマに酔いしれた瞬間等、37年の教員人生を振り返ると、中身の濃さに驚くとともに、感謝の気持ちが湧き上がってきます。思い出深い3つの出会いが、教員としての憧れやエネルギー、叱咤激励になったことを記します。

1 教員として進むべき道標を示してくださったN校長先生

初任の年、ご一緒したのは1年間。5回の校内研修会を経験しました。初任研のファイルは3冊になり、その最終ページに「貴君の真摯な取組を大切に」との付箋が付してありました。この言葉に強く感動し、自分が進むべき方向が明確になりました。厳しさと優しさを胸に、節目の度に笑顔で励ましていただきました。

2 教員として生きる＝人としての生き方を模索することと教えてくれたT子

「登校拒否も日記を通して改善できる」という力ない仮説は、伸びすぎた鼻と共に見事に打ち砕かれました。時間をかけて信頼関係を結びつつ、指導と援助、「共にいる」ことの難しさと喜びを味わいました。『子どもの宇宙』（河合隼雄）をバイブルに、心の成長の物語を慈しむことの大切さを学んだ出会いでした。

3 互いの持ち味を磨き合う醍醐味を共有したY教諭

3度職場を共にしました。先輩と後輩として入れ替わったこともありましたが、得意教科も子供たちへの関わり方も、授業観も相容れない部分がありながらも、互いの個性を認め合い刺激し合う関係でした。共有した時間は計算できません。かけがえのないライバルに恵まれ、切磋琢磨する喜びを味わうことができました。

これまでに学んだ教育観や人生観を昇華し、その後の学校運営等に生かすことができたかどうか疑問符が付きます。それでも、課題や困難にぶつかったとき、異動や転勤等の節目のときには、その引き出しを開け、しっかりと噛み締めて実践を積み重ねてきたことを誇らしく思います。

終わりに、私たち教員は、子供たちがかけがえのない未来＝宝物であることを忘れてはならないと思います。子供の成長と自分自身の成長は、車の両輪だからです。片輪では光にも力にもなりません。また、一緒に勤める教職員は、富山県教育を発展させていく人財として、互いにリスペクトすることも大切です。学校を舞台に素晴らしい出会いと貴重な体験を通して、教員生活の喜び＝**おのおの花が咲く**＝を味わっていただくことを願っています。



【ガーベラ：花言葉「希望」「常に前進」】

教職生活を振り返って

黒部市立若栗小学校

校長 根塚 昌志

私は、今年度の終わりをもって教職生活を終えることとなります。採用されてから37年も経ったのかと思うと、よく教員を続けることができたものだと我ながら感心しています。

その原点になったのは、大学2年の時に手にした『兎の眼』という一冊の本との出会いでした。そこに描かれた“気概に溢れ、子供のことを分かろうとする教師の姿”、“子供をかわいがり、子供のよさを見付けようとする教師の姿”、“弱者の立場になって考える教師の姿”、“前向きで、自身を高めていこうとする教師の姿”など、人としてそして教師としての有り様や生き様に触発されて、安易な選択だったように思いますが、教職を本気で目指そうと思うようになりました。

そんな私の教職生活は昭和61年の春にスタートしました。ほんの少しの講師経験はあったものの、仕事の要領が悪く帰宅時間はいつも遅くなりました。それでも教職の仕事が楽しいと感じていたように思います。初任校では、社会科の教材開発にも積極的に取り組んだことが心に残っています。授業の構想や資料づくり、地域への取材等で先輩教師や上司に助言や協力をいただいたり、課題解決に取り組む子供たちからは自分の指導の至らなさや上手くいったときの喜びを感じたりすることができました。地域素材の教材化に取り組む中で、地元の方から「和紙で卒業証書を作ってみないか」と持ち掛けられたときには、地域と関わることのよさを心から感じたものでした（その後、和紙で卒業証書を作ることが簡単なことではないことが分かり、許可を得るまで大変でした）。子供たちと一緒に取り組んだことの一つ一つが私の財産になっていきました。特に、失敗から学ぶことが多くありました。

教職生活が20年ほど経った頃のことです。当時の校長先生が折に触れて自分の教育信条（「心のコップは上向きに」等）を伝えておられる姿に接し、教職を目指そうとしたときの思いが薄れてきていた自分に「はっ」としました。以降、自分が理想とする教師の有り様を大切にするようになりました。“子供を理解することの根本は、子供が自分のことをどう思っているかということを理解すること”、“自分の教え方で学ばない子供には、その子の学び方で教えること”、“不機嫌は、立派な環境破壊であること”、“伝えることと伝わることは違うということ”、“調子がいいとき、問題は進行すること”、“「居場所」と「役割」と「出番」を与えること”等々です。

そして教職生活のゴールが見え始めたころ、「教師は職業というよりも生き方です。納得のいく人生を！」という言葉に尊敬する元上司からいただきました。なんだかその言葉が心に落ちました。これまで、この仕事に真面目に向き合ってきたつもりではいますが、振り返ってみて納得のいく教職人生だったかどうかは、まだ判断がつきません。ただ、教職という道を選んでよかったということにははっきりと言えます。そのように思えるのも、これまで出会った子供たち、同僚や先輩方、保護者、そして家族、それぞれの支えや助言があったお陰だと思っています。これまで、本当にありがとうございました。

多くの出会いに感謝をこめて

黒部市立宇奈月小学校
校長 金三津 ひろみ

石川県での臨任講師2年、正規教員2年の教員生活の後、右も左も分からなかった「黒部市」の石田小学校に新採教員として着任した平成元年4月。それから34年間、東部教育事務所勤務の2年間以外はずっと黒部市内に勤務してきました。閉校した田家小学校や三日市小学校も含めた7校と市教育センターでの勤務、教頭、校長等、様々な役割に就き、多くの経験をさせていただきました。教員として様々な経験を積み重ねた「黒部」は、今では生まれ育った場所以上に大切な場所となりました。

「縁あって」という言葉以上にぴったりの表現が見つからないほどの「縁」であり、大げさに言うなら「運命」だったと思います。自分で選択し、進んできたわけではありません。けれども、私以上に私のことを理解し、成長や活躍を期待して適切な場所や役割を与えてくださった方々のおかげで、素晴らしい教員人生を送ることができました。かっこよく言うなら、「置かれた場所で咲きなさい」でしょうか。頼りない私の背中を押し、その時々ぴったりの場所に置いてくださった方々の存在に心から感謝しています。

富山県の教員となることを伝えたとき、当時の学校の先輩方から「富山県は教育県で先生方も研究熱心、ついていくのは大変だと思うけれど、がんばって」との励ましとも脅しとも受け取れる言葉で送り出されました。そして着任した石田小学校は、県小教研社会科の推進校。先輩方の言葉通り、熱心で力量の高い先生方が揃い、学年2学級の規模のため、若手教員はベテランや中堅の学年主任と組ませていただける恵まれた環境でした。私が組ませていただいたN先生は、授業、学級経営、その他の校務、どれをとっても素晴らしく、憧れの存在でした。自分の指導力のなさに落ち込むことも多々ありましたが、10歳年上のN先生の姿を見ながら、「苦しくても、10年一生懸命がんばれば、N先生のようにになれるかもしれない」と希望も湧いてきました。10年経ってもN先生のようにはなれませんでした。が、「こんな先生になりたい」と思える多くの先輩方との出会いは、私にとってかけがえのないものでした。日々、言葉だけでなく、その姿で多くのことを教えてくださった先生方に心から感謝しています。

教頭としてのスタートも石田小学校でした。思い出すと恥ずかしいことばかりの頼りない教頭でした。何とか1年間、教頭職を全うすることができたのも、校長先生をはじめとする経験豊かで協力的な先生方や個性的で温かい多くの保護者のおかげです。

その後も2校で教頭職を務めさせていただきました。生徒指導や特別支援教育等に関する経験も専門性も十分でない分、せめて、目の前のことから逃げず、人のせいや他人事にする事なく、自分にできることを誠実にやり遂げようと心に誓いました。今振り返ると、うまくいかなかったことも含めて、自分事として自分自身が動いたことこそが本物の経験として身に付き、大きな財産となったように思います。経験の乏しかった私を信じて任せ、見守ることで導いてくださった校長先生方に心から感謝しています。

どんなときも、「大丈夫。何とかなる」と力強く受け止め、教職員が安心して力を発揮できるようにしてくださった校長先生の姿は私の憧れであり、その後の目標となりました。

校長として過ごさせていただいた5年間。目標とする校長先生の姿にはほど遠く、教職員を安心させるどころか、目の前の課題に悩み、迷い、ときに翻弄され、ジタバタしてばかりの毎日でした。けれども、教員生活の中でこれまでにないほどに、「学校とは」「子供のために」と考えた時間でもありました。共に悩み、ときに的確な助言を与えてくれた教頭先生をはじめ先生方には感謝の気持ちしかありません。

「一生懸命がんばっても、うまくいかないこともたくさんある。けれども、がんばることはいいことだと僕は思う」

3学期の始業式に、6年生の一人が発表した言葉です。もちろん、人には、がんばれないときも、がんばってはいけないときもあるかも知れません。それでもやっぱり、「学校は」「『がんばることはいいことだ』と思える子供を育てるところ」でありたい。迷ってばかりの私に、たくさんのことを教えてくれた子供たちに心から感謝しています。

終わりに、重ねて、これまでの数々の出会いに心からの感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。

中央研修の報告

「カリキュラム・マネジメント研修」を受講して

石田小学校 教諭 高島 綾子

今回「独立行政法人教職員支援機構主催の令和4年度カリキュラム・マネジメント研修」をオンラインで受講する機会をいただきました。この研修を受講する前までは、カリキュラム・マネジメントというと、管理職や教務主任が中心となって行うものという印象が強く、「難しそう、振り返る時間を捻出することが大変そうだ」と思っていた。しかし、今回の研修を通して、カリキュラム・マネジメントとは、これまで通りの教育課程を地域の実態や子供の実態に合わせて見直す行為そのものを指し、明日からでも誰でも実践可能な取組や方法がたくさんあるということ強く感じた。

これからカリキュラム・マネジメントを推進していくにあたり、キーワードとなるのが「気負わずできる」だ。誰もがちょっと考えてみよう、やってみようという取り組みができるシステムを確立することで、全員が参加・参画するカリキュラム・マネジメントとなると考える。そこで、すぐに取り組めるものの一つとして、「風通しのよい職員室づくり」を提案する。共有すべき目標や年間計画、行事の目当て等を全教職員が見える場所に掲示し、日々の授業について気軽に情報交換し、アドバイスや振り返りを記入していく。普段の会話の中で生まれるアイデアや、反省をすぐに書き込み、可視化できる場を作るだけで、誰もが気軽に参加・参画する状況を作り出すことができるのではないだろうか。また、教職員みんなで語り合い、見直すことはOJT研修、若手の育成にもつながるであろう。

「カリキュラム・マネジメント」は私たちを多忙にするものではなく、教育の在り方を見つめ直し、学校、地域、保護者にとってもよりよい実践可能な教育の在り方を模索しつくり上げていくものである。教職員みんなで知恵を出し合い、無理なく、効率的に、計画的に行うことができるカリキュラム・マネジメントのシステムをつくりあげ、子供や地域の実態に合った教育の在り方を目指し取り組んでいきたい。

「学校組織マネジメント研修」を受講して

宇奈月小学校 教諭 大上戸 剛司

独立行政法人教職員支援機構主催の学校組織マネジメント研修を受講する機会をいただきました。

本研修を通して理解を深めた「学校ビジョンの構築」、「学校教育目標の具現化をマネジメントする専門的知見を活用した組織的な取組」、「学校の働き方改革」等についてご報告いたします。

「学校教育の質保証としての学校経営改革の動向」 国士舘大学 北神正行 教授

○「学校教育の質保証」の3側面(学校教育の質保証とは、学校が変わる、すなわち子どもが変わること)

	法令による改革 (学校教育全体の改革)	評価で改善 (明確な評価結果を基に)	組織マネジメントで改善(学校全体としての組織マネジメント)
教育内容の改革 (学力の質)	新学習指導要領改訂	学力評価 教育課程評価	カリキュラムマネジメント
教員の指導力の改革 (教員の質)	教育職員免許法及び教育公務員特例法改正	教員評価(教員を育成するための評価)	スタッフマネジメント メンタルヘルスマネジメント
学校運営と組織の改革 (経営の質)	学校教育法改正 地方教育行政法改正	学校評価	スクールマネジメント コミュニティマネジメント 他

・教育の構造改革とは、国が教育の目標設定とその実現のための基盤整備を行い、市区町村・学校の権限・責任の拡大を進め、教育の結果の検証を国の責任で行うというものである。すなわち、国が入り口と出口を管理し、地方分権、規制緩和の下で「教育現場主義」による「学校教育の質」を保証しようとするものである。

今後は、本研修で得られた専門的知見を生かし、校内並びに市内教職員の専門性向上のため、効果的な研修の実施に努めていきたいと思っております。

道徳教育推進研修報告

学校で「心」を育てる

明峰中学校 教諭 平 雄造

私自身、これまでは道徳教育といえば、道徳の授業をイメージするばかりであったが、「学校のあらゆる教育活動を通じて行われるべきもの」であり、「心」という人間として最も大切なものを育てる部分であるので、教師自身をもっと勉強する必要があると感じるようになった。また、「教師が望む生徒」を育てるのではなく、「生徒自身がどんな姿になりたいのか」を考え、実践し、それを教師が支えたり、導いたりするものであることを知った。

明峰中学校では、「特別活動」「生徒会活動」の取組の一つとして「学級改善プロジェクト」を実施している。自分たちで学級の改善点を見付け出し、解決するための取組を企画・実践し、それを振り返るといふものである。取組の記録はデータ化し、いつでも個人や学級の成長が確認できるようにになっている。また「何のために取り組むのか」という話し合いをしっかりと行うことで、「やらされている活動」にならないように留意し、一人一人の役割について考えることで、自己有用感を高めることができると考える。この実践の中で、道徳教育に関連し、「決まりを守ろうとする態度」「互いに認め合う態度」「善悪に対する判断力」等を養っていきたいと考えている。

学校生活では道徳科の授業の他に、各教科の授業、生徒会活動、清掃活動や部活動がある。それら全てが生徒の心を育て、鍛える場であろう。多忙の中ではあるが、教師の責任を忘れず、しっかりと生徒に向き合って成長を見守りたいと思っている。

令和4年度令和のとやま型教育推進事業 成果と課題

黒部市教育委員会

1 研究課題

基礎的読解力・数学的思考力・情報活用能力等の育成

～道具としてのICTの活用を図りながら～

今年度、黒部市では、清明中学校区の小中学校を研究推進校とし、各学校の実態に即して研修テーマを絞り、各学校の研修主題の解明の手立ての一つとして「道具としてのICTを活用しながら基礎的読解力（読み解く力）・数学的思考力・情報活用能力等の育成」に関する取組を取り入れて調査研究を進めた。

2 取組の概要

(1) 成果

<基礎的読解力の育成について>

- ・語彙を増やすための言葉集めでは、タブレット端末を用いて、協力して言葉集めをし、集めた言葉を用いて俳句の穴埋め問題に取り組むなど、段階的に活動を進めたことで、俳句作りに対する意欲を高めるとともに語彙を増やすことができた。
- ・朝活動の時間に読書の時間を設定したり、「ブックマラソンカード」を活用して読書記録を蓄積したりすることで、基礎的読解力の素地をつくることができた。
- ・朝活動の時間に「作文タイム」を実施し、新聞の記事を読み、記事を読んで分かったことや思ったこと等をワークシートにまとめるようにすることを継続して取り組むことで、記事に書かれている内容を正しく理解して読み取ることや、新しく得た知識を自分なりの言葉で表現できる力が定着してきた。

<数学的思考力の育成について>

- ・ペア学習やグループ学習を適切に設定することで、全員に話す機会をつくったり、自分の考えを見直し自己調整する機会を与えたりすることができ、数学的思考力の育成に役立だった。

- ・問題解決的な学習においては、ワークシートの構造の工夫や他者の意見を参考にすることで、自分の意見を整理し、それらを広げたり深めたりすることができた。
- ・振り返りの時間を適切な場面で設け、学びを書かせることで自分の成長を自覚できる。「もっと知りたい」ことを書かせることが、次時への意欲にもつながり、主体的で問題解決的な学習につながると分かった。

<情報活用能力の育成について>

- ・児童一人一人がタブレット端末を利用して、必要な情報を収集することができた。
- ・比例の関係を活用した問題解決の方法を考え、ノートに書いたものを写真に撮り、児童全員で送り合った。児童は送られてきた画像をシンキングツール（Yチャート図等）を用いて、自分なりに分類をした（決まった数を求める、比の関係を使って考えるなど）。友達の様々な解法に触れることで、それぞれの解法のよさに気付くことができたと考える。

<道具としてのICTの活用について>

- ・各教科においてロイロノートを使用した授業を効果的に行うことができた。
- ・子供の考えを視覚的に捉えることができる2色のカードを用いた読み取りや、共同編集ソフトを利用した作戦会議等の学習活動は、子供たちが「考えを共有したい」という思いを生み出し、自然と関わり合い考えを深めていくことにつながった。
- ・ICT機器を活用することで、一度に多くの友達の意見を共有できるようになり、新しい気付きを促したり、多角的なものの見方を養ったりする上で有効であるということが分かった。
- ・授業の振り返りにタブレット端末を活用したことで、文章を書くことが苦手な生徒も意欲的に振り返りやまとめを入力することができた。また、長期休業中のeライブラリの活用は、日頃学習に意欲的でない生徒もゲーム感覚で取り組むことができた。

(2) 課題

- ・子供たちの生活と関連させた学習活動を設定することで、語彙を増やししながら、文章の中から自分にとって大切だなと思う情報を引き出し、自分の知識や経験と結び付けてまとめたり、話し合ったりする活動を工夫することが大切であるだと考える。
- ・学年の実態に合わせたICT機器を活用する能力（文字の入力、ロイロノートの基本的な使用方法を理解する等）の向上が必要であり、その能力を習得するための指導が必要となる。
- ・タブレット端末を利用して話し合い活動を行うと、端末ばかりに目が向き、互いの目を見て語るができない児童がいる。考えを端末上に提示してから話し合う場面と発問を受けて思いのまま語り合う場面をバランスよく組み合わせることが大切である。
- ・タブレット端末の活用により、得られる情報は多いので、課題に対して必要な情報の取舍選択や情報の正誤を判別することができるような場を設定していく必要がある。

3 今後に向けて

「基礎的読解力（読み解く力）・数学的思考力・情報活用能力等の育成」については、ICTの活用や教科横断的な学習、問題発見・解決型の学習等とも関わりがあるテーマであるため、今後も各学校の実態に応じた取組を通して、子供たちに身に付くよう研究を進めていきたい。



新規購入書籍・DVDのご案内

教育センターでは、新しい書籍とDVDを購入しました。貸出希望のある方は、お気軽に教育センターまでご連絡ください。

【図書】

<p>不登校の本質 小野昌彦</p>	<p>「学校に行きたくない」と子どもが言ったとき親ができること 石井志昂</p>	<p>不登校の子どもに親ができること (4つのタイプ別対処法) C・A・カーニー著/今井必生訳</p>	<p>不登校になったら最初に読む本 小林高子</p>
			
<p>保護者のためのいじめ解決の教科書 阿部泰尚</p>	<p>いじめ加害者にどう対応するか 斎藤 環・内田 良</p>	<p>要約力を鍛えるとどんな子も本物の国語力が身につく 野田真吾</p>	<p>スクラッチプログラミング事例大全集 松下孝太郎・山本光</p>
			

【DVD】

<p>個性なの？障害なの？ ～早く知っておきたい発達障害～</p>	<p>スマホ依存 —スマホ依存とその対策法— 日本国民の2人に1人がスマホを利用</p>
 <p>【作品の内容】 人には誰でも得意・不得意があるが、発達障害のある人はその差が大きかったり物事の感じ方や考え方が大きく違っていたりする。それを踏まえ、発達障害の種類と主な特徴を見ていく。 ★ASD(自閉症スペクトラム症) ★LD(学習障害) ★ADHD(注意欠陥・多動性障害)</p>	 <p>【作品の内容】 ★スマホ依存の特徴 ★スマホ依存の原因 ★スマホ依存の悪影響 ★スマホ依存を治す</p>